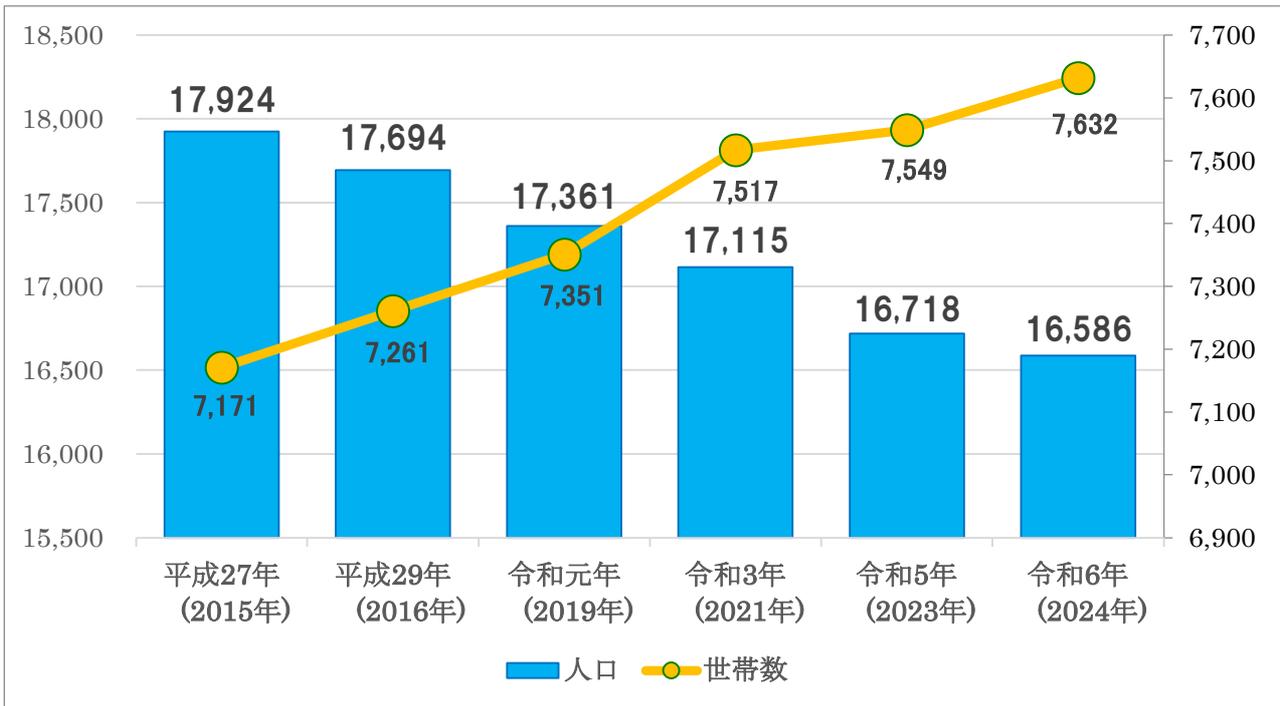


# 高 部 地 区 カ ル テ

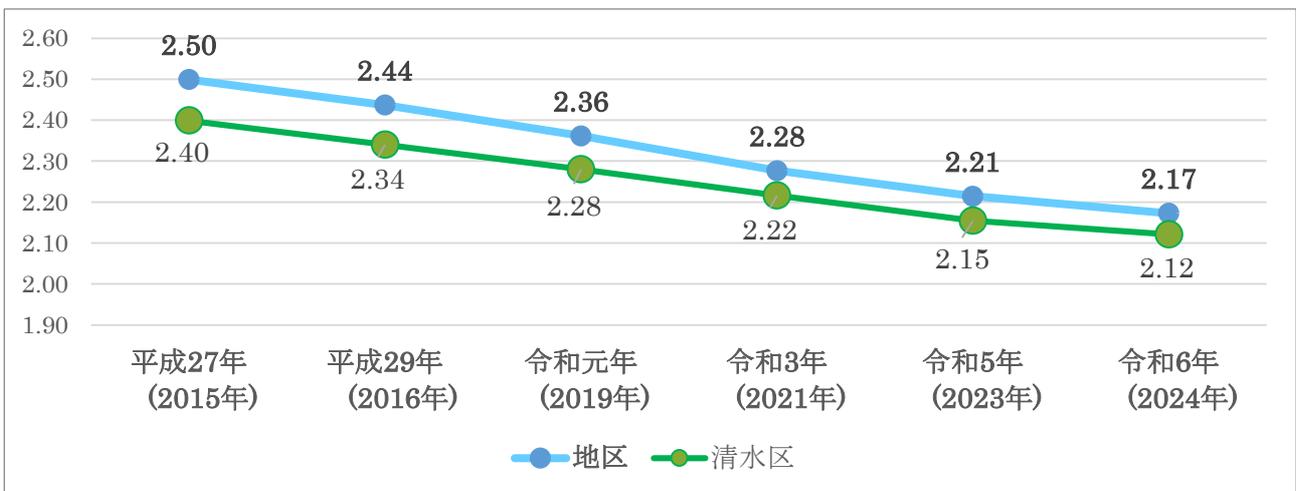
## データについて

- ・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。
- ・住民基本台帳は各年の3月31日の数値、自治会加入数は各年の4月1日の数値です。
- ・町名は住民基本台帳を採用しているため、自治会名と一部異なる場合があります。

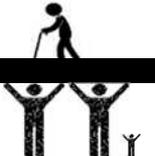
●人口・世帯数の推移



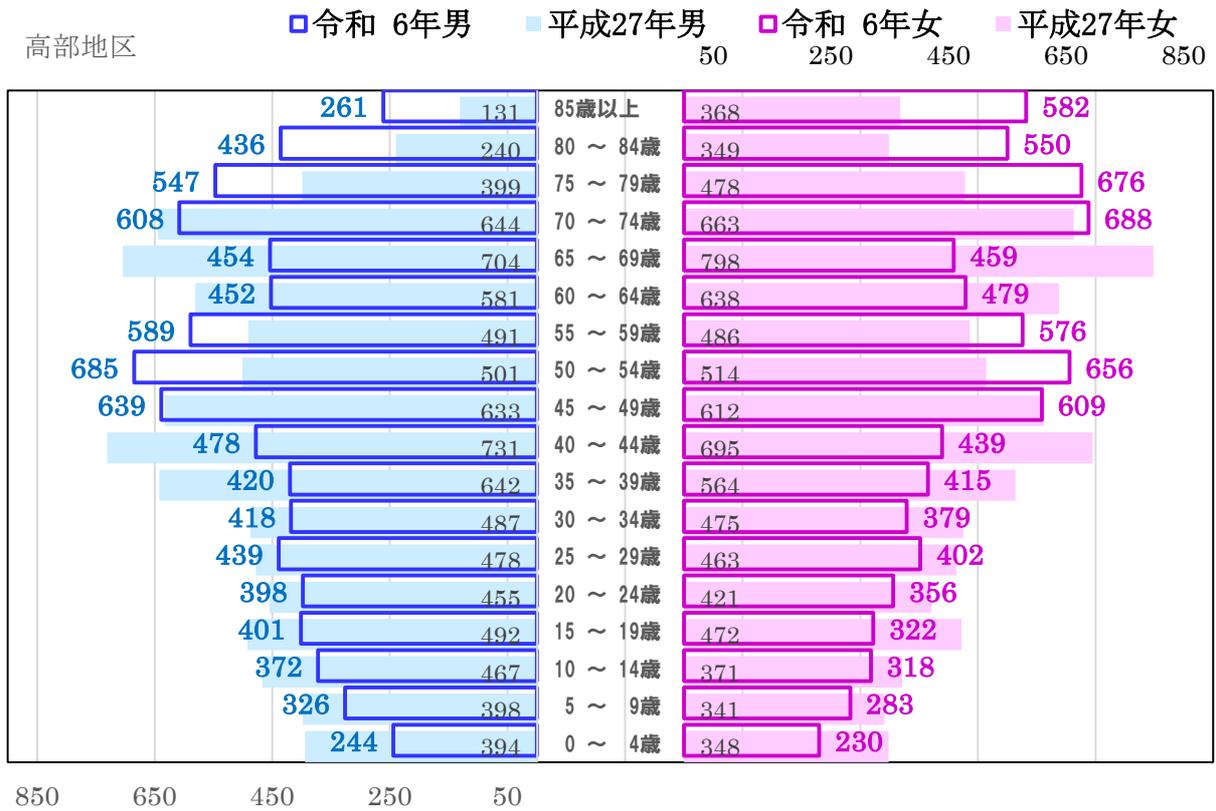
●一世帯当たりの人口推移



●65歳以上の高齢者を支える生産年齢層 (15-64歳)

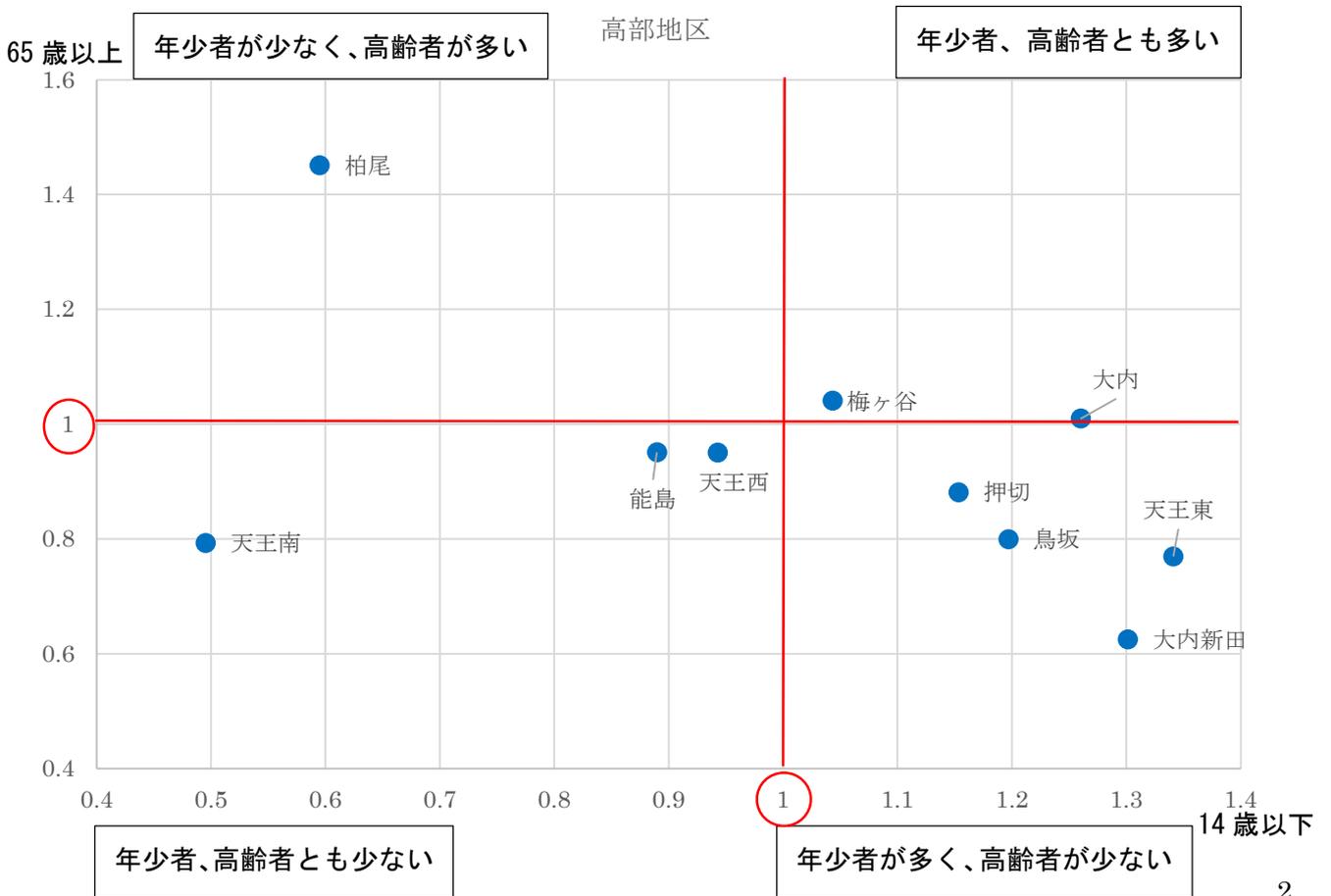
区分	平成27年 (2015年)	令和6年 (2024年)
地区	 2.27人	 1.82人
静岡市	2.16人	1.87人
清水区	1.98人	1.70人

●人口ピラミッド【平成27年(2015年)と令和6年(2024年)の5歳階級別男女別構成】



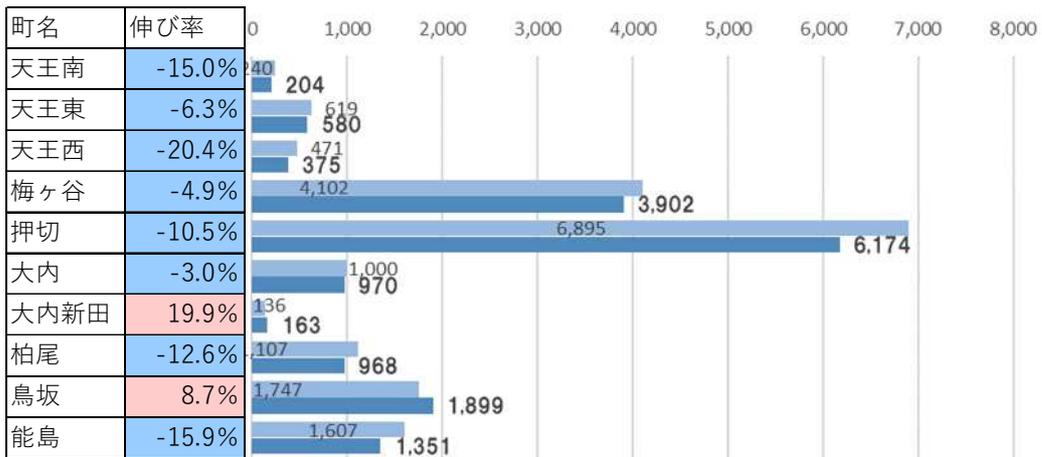
●町別の14歳以下と65歳以上の割合分布 (清水区の平均値を1とした場合)

※年少者(14歳以下)高齢者(65歳以上)



●町別の伸び率と人口推移 【平成27年（2015年）と令和6年（2024年）の比較】

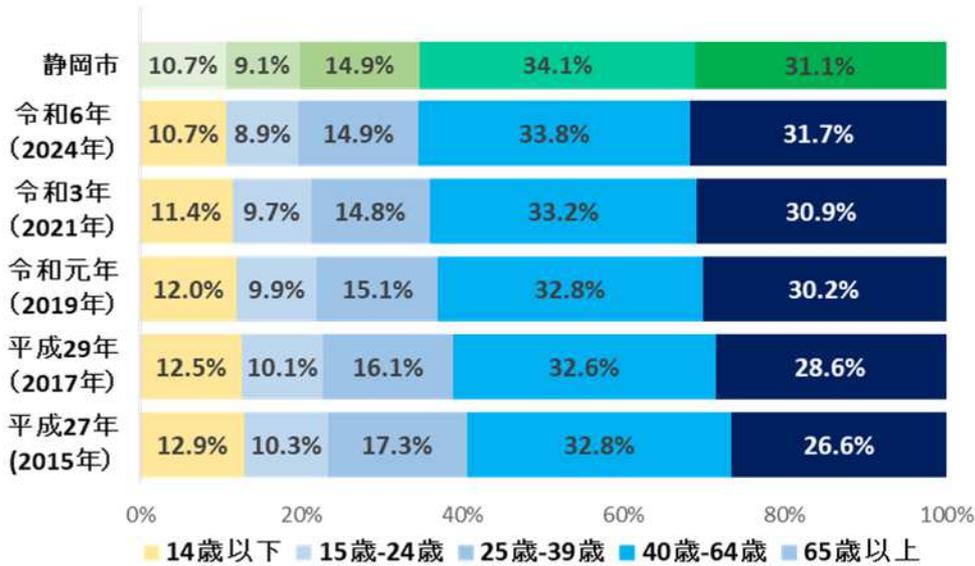
人口推移グラフ（上段平成27年 下段令和6年）



		人 口	
		平成 27 年 (2015 年)	令和 6 年 (2024 年)
高部地区	-7.5%	17,924	16,586
静岡市	-5.3%	713,564	675,610

●町別人口区分別割合

・年齢5区分別人口割合の推移



※15-24歳は高校から社会人(大学修士課程含む) 25-39歳は社会人(大学博士課程含む)

・令和6年人口3区分別：

市の割合より

青字 14歳以下の割合が低い場合

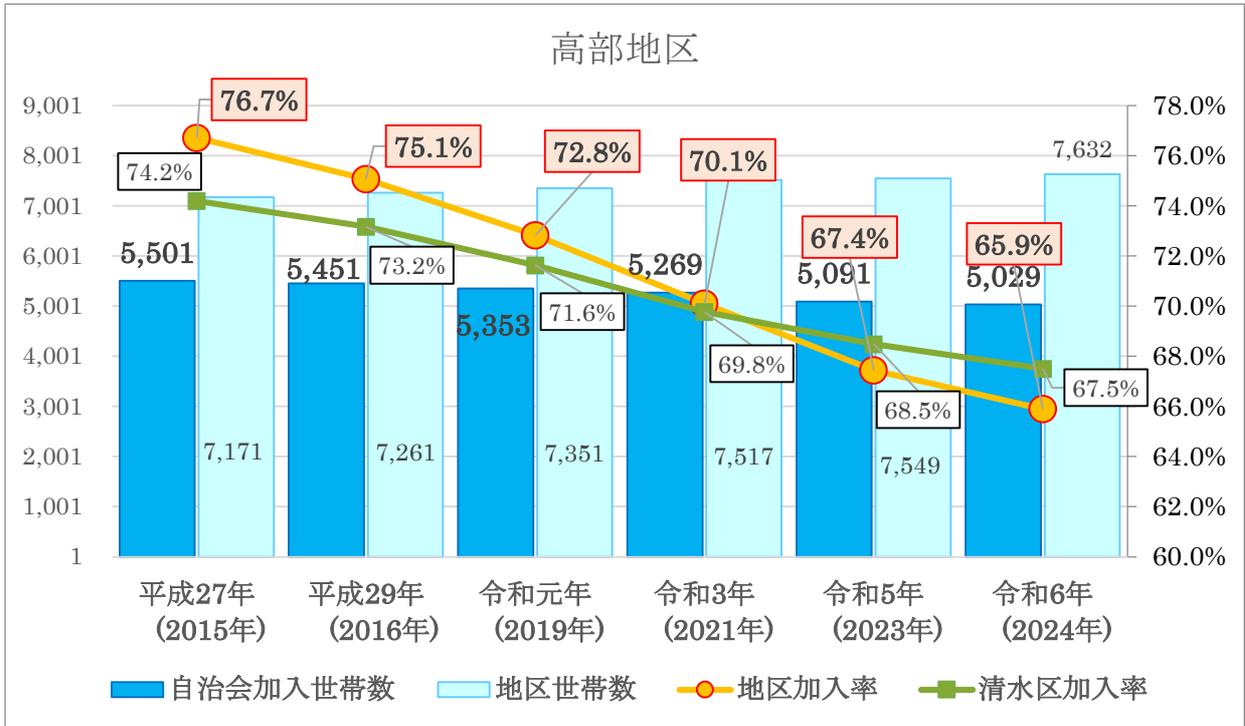
赤字 65歳以上、75歳以上の割合が高い場合

町名	令和6年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
天王南	4.9%	26.5%	17.2%
天王東	13.3%	25.7%	14.1%
天王西	9.3%	31.7%	22.1%
梅ヶ谷	10.3%	34.8%	19.9%
押切	11.4%	29.4%	17.5%
大内	12.5%	33.7%	19.5%
大内新田	12.9%	20.9%	12.9%
柏尾	5.9%	48.5%	32.2%
鳥坂	11.8%	26.7%	13.4%
能島	8.8%	31.8%	16.1%
高部地区	10.7%	31.7%	18.4%
清水区	9.8%	33.0%	19.3%
静岡市	10.7%	31.1%	18.0%

●自治会加入状況

令和6年

加入率	地区	65.9%	加入世帯数	5,029世帯
	清水区	67.5%	住民基本台帳世帯数	7,632世帯



高部地区コメント

- ・人口は減少傾向を示し、世帯数は増加傾向にあります。世帯人数が減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。
- ・人口減少地区はほとんどですが、平成27年と令和6年の人口比較で19.9%増加している地区(大内新田)や微増している地区(鳥坂)もあります。
- ・65歳以上を1人支える生産年齢(15歳から64歳)が市の1.9人より少ない1.8人で減少傾向にあります。
- ・さらに、自治会の加入率は区の値より高い値が続いてきましたが、令和5年で逆転し、令和6年は区の値68%より低い66%となっています。

# 高 部 地 区

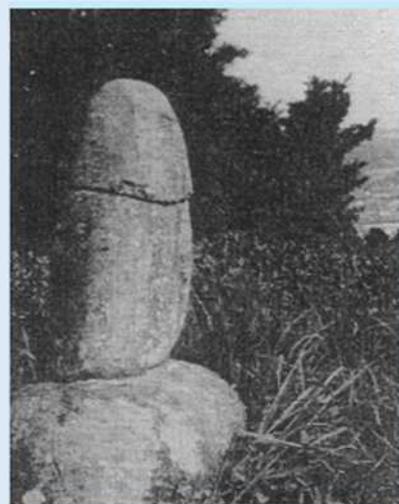
## 地名のゆかり

大内の靈山寺が僧行基によって建てられたのは、養老2年（718）と言われています。古い高部は、国府の安倍ノ市や廬原へ通ずる、昔の街道沿いに発達したものでしょう。

地球が暖かくなり、巴川流域に水田にしやすい湿地が増えた平安中期には、「高部の御厨(みくり)」が中河内川から長尾川までの庵原山地南ろくに形成され、その後、そのほとんどが「高部の庄」になったと言われています。御厨は、伊勢大神宮の神領地で、神に供える米を作ったところです。

そのころから世が乱れて、各地に豪族が割拠し、戦乱のたびに、村人が武器を手にして戦うようになりました。正治2年（1200）、内で梶原一族を討った大内小次郎も、その一人でしょう。今川時代には今川一族が梅が谷の領主となり、真珠院を保護したことが知られています。

明治22年、大内、梅が谷、柏尾、押切など、付近の村が合併して昔の高部の御厨や高部の庄の名をとった、「高部村」が誕生しました。なお、郷土の先覚者高田宣和と神部保の性を一字ずつとって、高部と付けたとも言われています。



大内の梶原絶頂

## 靈 山 寺

古義真言宗鷲峯山靈山寺は、釈尊説法の靈地インドの鷲峯山にちなみ、奈良時代、第45代聖武天皇の天平9年（737）に行基菩薩創建と伝えられています。

創建の頃は、東谷を隔てた東側、山の中腹「古御堂(ふるみどう)」の地に建てられていましたが、正慶年間（1332～1333）現在の地に移されました。

境内には本堂、庫裡、物置、鐘楼、妙見宮跡、仁王門、吁吉尼(たきに)天堂、天場跡、住職墓地などがあり、総坪1800余坪とされています。

山門は、永正13年（1616）に建立されたもので、三間一層単層門、屋根は寄棟造茅葺で柱は上方で細くなるエンタシス（ギリシャ神殿の柱）の感をなしています。県内でも2番目に古い建物で、国の重要文化財になっています。また、宝暦6年（1756）に建てられた本堂は、市指定建造物になっています。

## 一本松公園

この山頂には昔、大きな松が立っていて、沖に行く船の目印になっていました。海から見ると、山の姿が船の帆のように見えるため「帆掛山」とも呼ばれていました。

昭和20年の落雷により一本松は枯れてしまい、地元の人たちが二代目の松を植えたそうですが、山頂には松の木が3本あり、どれが二代目なのかわかりません。ここからは360度の景色が望め、北側に富士山、日本大が、静岡市街地や大浜海岸まで見渡せます。

この地域一帯は、歴史的にも貴重な古墳や史跡などが残されていて、ハイキングコースにもなっているため、多くのハイカーが訪れています。



## 光福寺本道

塩田川上流に、複雑なデザインの正面玄関で目を引く光福寺があります。1927年、当時の最先端の建築技術と伝統的な左官技術の両方を駆使して設計から完成まで5年を要して建てられました。

特に本堂正面のデザインが特徴的で、建物周縁部は端正でシャープな仕上がり、天に向かって突き出た中央の相輪は、鎌倉時代に流行した花頭(かとう)窓(まど)です。うねり上がった屋根は大きくせり出していて、伝来した文化がひと目でわかります。左右一對のしっくい製レリーフは、天女が空を舞っているようなデザインです。戦時中はコンクリートの白さを隠すため墨汁で塗り込まれるなど、時代の風雪に耐えてきました。

参道の前には石垣や木々で囲まれた古民家が並び、多くの人が行き来した様子が思い浮かんできます。



光福寺

## 大内観音

大内の霊山寺は、天平勝宝元年(749)に建立されたと言われています。諸国を巡って道を開き、寺を建て、橋を架けた奈良時代の高僧行基が、駿河に来たとき、有度山中の楠の大木で千手観音を七体彫り、その一つを霊山寺に祭ったと伝えられています。

この霊山寺は、駿河七観音の一寺として、昔から信仰されている霊場ですので、参拝する人が絶えなかったことでしょう。

また、雨乞いの霊験あらたかなことでも知られ、日照り続きの時には大勢の農民が雨乞いに練り込みました。

観音様のお祭りは毎年3月3日に開かれますが、家内安全や、子供の虫封じを願う人々で賑わいます。この日、夜が更けてくると、年齢をそれぞれ星になぞらえ、その年回りの厄を払う星祭りも行われるそうです。



霊山寺の仁王門

## 「国光寺物語」

梅ヶ谷にある真珠院の辺りは、小字を国光寺と言い、この名の由来には次のような話が伝えられています。

貞治4年(1365)駿河の国主今川国氏が、家臣を連れて龍爪山に狩りに出掛け、獲物を求めて山中をさまよっているうち、つい大平山(両河内)まで来てしまいました。すると、泉のわき出るほとりの大きな石の上に、一人の僧が端座しているのです。国氏が歩み寄って声をかけると、「私は照全比丘という者、修行の妨げをしてくれるな」と言うばかりです。そこで国氏は「まだ不安定な今川家と駿河国を栄えさせるにはどうしたらよいか」と教えを請いました。

僧はじっと考えていましたが、突然大きな声で「応無所住而其心」と答えました。これは、色や欲を捨て無に帰って事に当たれ、ということです。この教えは国氏にとって大いに得るところがあり、その後今川家の基礎は着々と固められました。

後に、国民は照全比丘を招いて高部の庄に一寺を建て、これを国光寺と名付けました。これが、今も地名としてこの辺りに残っているのだと言われています。



梅ヶ谷の真珠院